

月経の名称

—— 現代の月経 ——

Vernacular Name of Menstruation — Modern Menstruation —

要旨

これまでに民俗学で行われてきた月経研究は、名称をはじめとして、穢れや不浄観をともなう女人禁制などの様々な禁忌や儀礼、人を生みだす神秘性と結びつけてとらえられる靈性、南西諸島と本州の差異、成人への一段階としての人生儀礼など、基本的に過去の文化的事象についての関心であり、現在進行形で女性の身体に起こり続けている現象としての月経、つまり現代の女性にとつての研究はほとんど行われてこなかった。

筆者は、現代の女性の身体文化に関心を持ち、調査を継続しているが、本稿では、筆者が蓄積してきた現代の月経についてのデータから名称についてとりあげ、日本人の月経に対する考え方の変化を探る。

かつて日本では月経は穢れたもの、不浄と捉えられてきたが、現代では不浄観は払拭され、すぐれた月経用品も開発されて、かつてとは天と地ほどの差がある。

鈴木 明子
AKIKO SUZUKI

そしてテレビコマーシャルで盛んに見ることができるよう、一見月経はオープンな現象になったような印象をかもしている。しかし現在でも月経については隠す隠さない二つの意見が存在し、また月経を表す名称はたくさん存在し、初経が低年齢化し、月経期間は長くなり、月経に伴う体調不良は増大するなど、月経は現在でも非常にナーバスな現象である。現在では月経用品の発達によってより隠すことのできるものとなったため、何もなければ他人に知られずに過ごすことができる一方で、月経痛など月経随伴症状の重い女性が増えている現状では隠せる状況にはないことも名称からよみとることができる。また月経に関する知識も思うほどには正しく普及していない。月経の伝承をあらためて調査し、また意識してよみとくことによって、現代の女性の生活に役立つ情報を集積し、また知識を提供する機会を改めて築く必要性も感じている。

はじめに

月経とは、第二次性徴にはいった女子の身体に発来し、閉経を迎えるまでおよそ四〇年の間、月に一度程度起こる生理現象の医学的名称である。生理現象の一つではあるが、命をもたらす神秘性をはらんでおり、そこにはただの生理的現象としてだけでなく、文化的な関心や身体知など、さまざまな問題関心を見て取ることができる。

月経に関する民俗学的研究では、その名称をはじめとして、穢れや不浄観をともなう女人禁制などの様々な禁忌や儀礼、人を生みだす神秘性と結びつけてとらえられる霊性、南西諸島と本州の差異、成人への一段階としての人生儀礼など、さまざまな問題が取り上げられてきた。しかし民俗学で取り上げられてきたテーマは、基本的に月経にまつわる過去の文化的事象についての関心であり、現在進行形で女性の身体に起こり続けている現象としての月経、つまり現代の女性にとっての月経に関する研究はほとんど行われていない現状がある。

筆者はこの十年、現代の女性の身体文化に関心を持ち、月経についても少しずつデータを蓄積してきた。本稿では、現代の月経の名称をとりあげ、日本人の月経に対する考え方の変化を探りたいと考えている。

I 名称略史

女性のみにおこる生理現象は、古来よりさまざまに表現されてきた。

月を用いた暦の始まりは、女性の月経のサイクルによつているとする話もあるなど、月という文字がつく表現も多い。

「月経」という漢字表記自体はおそらく中国からもたらされたもので、日本で最古の月経についての資料である和銅五年（七一二）成立の『古事記』にも見ることが出来る。「其美夜受比売、捧大御酒盞以献。爾、美夜受比売、其、於^二意須比之欄^一、意須比三。著^二月経^一。故、見^二其月経^一、御歌曰（～筆者）」と記され、倭健命が東征の帰途、婚を約した美夜受比売との酒宴の場面において、比売の着衣の裾に月経が着いているのを見て、歌を詠んだのである。『古事記』には「月経」に仮名はなく、読み方については「さはり」「つき」「つきのさはり」など諸説ある。

平安時代の文学作品を見ると「穢」（『宇津保物語』）、「けがれ」（『落窪物語』）などと記され、『蜻蛉日記』には「けがれ」、「不浄」、「れいのつゝしむべきこと」などさまざまに表現されている。平安時代に成立した『倭名類聚抄』（九三二～九三八）では「月水」と掲出し、「俗云佐波利」と当時の一般的な表現を万葉仮名で記しており、平仮名になおせば「さはり」、現代の発音になおせば「さわり」ということになり、この表現は明治まで続く。^①

江戸時代の百科事典『和漢三才図会』（正徳三年・一七一三）では『倭名類聚抄』と同様に「月水」と掲出し「つきのさはり」と訓じ「和名さはり」と付しているが、^②ほかに天葵、経水、月事、月信、紅鉛などの漢語があげられている。江戸時代には、ほかに月役、月の物、お馬、穢、差合、障などさまざまな表現が見られ、また月経時の腹痛や腰痛を

月虫、月水虫、障虫と記し、さはりむしと訓じている。以上簡単に月経名称の歴史の変遷をみてきたが、月経を意味する言葉は古くからさまざまに創出されてきたことがわかり、そして平安期にはいと月経を表す言葉に不浄観や穢れ観があらわれるようになり、こうした状況は明治五年（一八七二）「産穢」、翌明治六年（一八七三）「混穢」の制度が廃止されるまで続いた。

近現代の名称

「月経」という漢字表記自体は古くから用いられ、まだ俗語も多種多様にあったが、一般には「月水」が用いられてきた。しかし幕末から明治にかけての医学者で海軍軍医だった奥山虎章が『医語類聚』という医学辞典において、「Menses」「Menstruation」など月経にまつわるドイツ語の訳語として「月経」を採用し、^⑤医学用語として一般にも普及し、現代では正式な医学用語として採用されており、最初の月経は初経である。『医語類聚』をみると漢字表記のみで発音は明記されていないが、明治期の辞典類では漢語が多く採用され、音読みさせることが多かったようである。『げつけい』と発音させるようになったのもこの時期と推測される。

一方現代の日本社会では「生理」という言葉が浸透しており、月経の手当のために市販されている商品も生理用品といわれている。この言葉は明治以降月経という言葉が一般化した時代に、その言葉避けるために用いられた「生理的故障」という婉曲的な表現に由来しているといわれ、昭和初期に使われ出し、次第に一般化し、第二次世界大戦後の昭和

二二年（一九四七）四月に公布された労働基準法において月経を「生理日」、月経時に取得できる休暇を「生理休暇」として採用した言葉が定着し、労働基準法から生理休暇が消えた現代社会においてもそのまま残り続け、現在にいたっている。^⑦

月経と生理という言葉に関しては研究があるが、そのほかの近現代の名称についてのまとまった研究はなく、断片的なものばかりで、たとえば池田弥三郎は次のように述べている。^⑧

日、の丸というなどは、国旗が制定されてからの隠語に違いないが、偶像破壊的な名付け方で苦笑を禁じ得ない。戦後、外国たはこのとりしまりが喧しかった頃、ラッキー・ストライキを日丸と呼んだのとともに、書きとめておいていい語だろう（中略）方言や隠語はひじょうに多いのだが、ここに羅列するのは何かはばかられる（中略）

だから、けがれとして忌むべきものでもともとなかったのに、月経に関する民俗は、およそこれをけがれとして扱っているものばかりである。（原著に傍点あり）

池田は「日丸」という近代的な隠語をあげるとともに、方言や隠語を知ってはいるものの羅列することを避ける旨を述べるとともに、月経に関する民俗は、月経をけがれとして扱っているものばかりであるとも述べている。日丸という表現は、不浄観が支配していた時代に月経時の当て布を洗濯したものをお天道さまの下に干すことができなかつたという民俗があったことと比べてとても興味深い変化である。そしてまたこの言葉は、娼婦の隠語を借りたものかもしれないという説もみられる。^⑨ こうした名

称の変化からも明治以降の月経観の変化を垣間見ることが出来る。

民俗語彙としては初経については、伊豆諸島のウイデ・ハツタビ・ハツカドなどが知られている。通常の月経については、メグリ、チボク、テナシといった言葉や、ベツヤになる、ブンヤになる、コヤンポー、コヤス、ベツ、ヒガワルクナル、ヒマエ、ヒマヤといった、別屋や別火を表す言葉の使用を見ることが出来る。また不浄観により月経を表す言葉を口にするのを避ける習俗もあり、正月ハ猶名サエも忌ンデ糸引ニ出ルト云ヘリ」というように、正月には月経という言葉避け、糸引きに出ると言えば、月経のことをあらずという地域もあった。

また現代の年配の女性たちの中には、生理ではなく「メンス」という外来語の略称を用いている事例なども聞くことがある。

月経用品よりの命名

江戸時代に月経の手当として用いられた禰様の月経帯が、馬の腹当てに似ていることからお馬と俗称され、お馬はまた月経の代名詞としても用いられたのと同じように、月経の手当に用いる用具の名称が月経の代名詞となることがある。昭和三六年一月に発売された日本での使い捨て月経用品の先駆け「アンネナプキン」にもとづく「アンネの日」「アンネちゃん」というネーミングである。これはアンネナプキンを使い始めた使用者が「アンネ」と呼び始めるのとともに、アンネ社自体も商品の普及を目的として商品名を月経の代名詞に用いた「アンネの日」というコピーを宣伝広告に大々的にのせ、アピールしたのである。

II アンケートから見る現代の名称

現代の日本では、日常生活の中ではほぼ一〇〇%月経の穢れ観を感じることはない¹⁰⁾。筆者自身の経験でも、月経について口にするのははばかられて親や妹などの家族はおろか友人ともほとんど話した記憶はないが、穢れや不浄という感覚ではなく、性をイメージするような感覚であった。何かの折に自分で使った言葉といえは、そのまま「生理」か「あれ」という表現で、また友人が話す言葉として記憶にあるのは前述の「アンネ」という言葉である。

筆者は二〇〇五年から講義内容で生理用品を取り上げ、授業の一環として月経に関する調査を行ってきた。筆者が作成した質問票に学生自身が書き込むアンケート形式の調査がほとんどで、その結果を反映させた授業を行い、学生に還元している。たまに「生理中に神棚に近づいてはいけないと祖母に言われた」という学生もいるが、ほとんどは実生活の中で月経の穢れや不浄観を知らない世代である。質問内容は「月経のことを一般的には生理といいますが、ほかに知っている名称はありますか?」というものである。回答者数は、八年で一〇〇〇名を超え、結果をまとめたものが、表「生理をのぞく月経の名称」である。一人で複数回答する学生もいれば、生理以外知らないという学生もいてさまざまである。二〇一二年度には男子学生に月経の別名を知っているか質問したため、その結果も含めている。

表 「生理をのぞく月経の名称」

主要素	副要素	月経呼称 (*男子も知っている言葉・※男子のみの言葉)	由来・理由(確認できたものだけ)
初経		初潮* 潮※	
英俗語 外来語略		ピリオド メンス(めんす)* M 芽寿*(めんす)	英語由来 祖母 祖母 インターネットで読みを確認
代名詞		あの日* 例の日※ あれ*・あれになった that※ なに・にやに なった・なっちゃった	
女	月経随伴症状 月経随伴症状	女の子*・女の子の日* 女の子day・女の子デー 女の子週間 女の子病 女子った 女子日 女性の日 女祭り・祭り 乙女・乙女の日 乙女デー 乙女週間 乙女痛 おなご・おなごの日 レディースデイ お姫様 プリンセス ひなまつり	女性にしか訪れないから
擬人化		あの子 奴(ヤツ)・やつが来た キャサリン さっちゃん ペリーさん ゆみちゃん 来た 「今来てるんだよ、使者が」	
客		親戚が来た お客様・お客さん*	一カ月に一回・毎月定期的に来るから
月	客 擬人化 擬人化 擬人化 随伴症状	マンスリーゲスト お月さま・お月さまの日 月の日※ (お)月もの つきごと 月一 月のもの* 月の訪れ 月よりの使(つかい)* 月よりの使者*・月からの使者・月の使者 セーラームーン つもごり・月のつもごり(ママ。つごもりカ) 月の襲撃(「月の襲撃をくらう」) 月のさわり	月に一回来るから 老人がこちらの言葉を使うイメージがある 毎月定期的に来るから
赤(血)	月 随伴症状 擬人化	赤い月※ 赤・レッド 赤い衝撃*(男子複数) 赤い悪魔(「今日赤い悪魔降臨した」) 赤い使者 ウルトラマン アカベコ いちごデー トマト ケチャップ ケチャマン 旗日※	大量出血するから 胸の赤い点滅による 布が血で染まるとそのように見える

主要素	副要素	月経呼称 (※男子も知っている言葉・※男子のみの言葉)	由来・理由(確認できたものだけ)
出血		血 血祭り* 血まみれ 血みどろ 血を見る日※ 多量出血 出血中 出血サービス ブラッディーデー ブラッディーウィーク WWII(子宮がWWII) 第一次世界大戦中 爆発 多い日※ 洪水	経血から・大量出血するから(男女とも) 大量出血するから 血がたくさん出るから
貧血・月経痛 など随伴症状等		血が足りない 貧血 来航(重い月経がやってくる) 償い(重い月経痛による) つらい日 お腹が痛い※ 腹痛※ 陣痛 排卵日* 排卵* おりもの※	重い月経痛は前世の報いであるとネーミング お腹・下腹部が痛くなるから 卵子が体外に排出されることによる 女子:不要になった卵子が排出されるから、 男子:使用されなかった卵子を排出するから
女性の様子		機嫌悪い日※ なんか機嫌悪い※ めんどくさい日※	
生理用品		アンネ お弁当箱	
その他		当たり※ おすぎ お荷物 お花 きゅうり せべ 誕生日 日和 マイブーム(友という) ペーリーさん(中学)ゴルジ(高校)サチコ(大学)	

人によって表現の仕方が微妙に違うだけの場合や派生的なものもあるため、同じ要素を持つものをまとめて分類した。主要素とは一義的に同じ意味をもつと筆者が判断したもので、副要素は、一つの言葉に主要素を含めて複数の意味がよみ取れる場合に付した。また男女ともに知っている言葉や男子だけが知っている言葉にも※などのマークを付し、由来や理由を確認できたものも載せておいた。

実数として把握しているわけではないが、多くの女性は基本的に「生理」という言葉を用い、月経という言葉はあまり用いていない印象がある。一方多くの学生は「あれ」という代名詞を使っていた。また友人との会話や病院など、場面によって使い分けるという意識もみられた。あれ・女の子の日など、男子も含めて多数が知っている言葉もあれば、「償い」「今日赤い悪魔降臨した」など、重い月経痛や出血量の多さなどの月経随伴症状をあらわす意味合いの言葉を、友人や姉妹などごくプライベートな関係で使用しているという例もみられた。

次に主要素ごとにみていく。

初めての生理は筆者の時代には初潮といったが、最近は医学用語の初経が用いられるようになってきており、初潮という言葉を知らないという学生もいる。また「初潮」「初経」という言葉は知っていても自分では使わないという意見なども聞かれる。

ピリオドは、英語の俗語で、英語では menstruation が日本語の月経にあたる。海外の映画やドラマなどで使用されていることから、知っているという人もいる。そして外来略語としてあげたのが menstruation

に由来した言葉にあたり、略してメンス・M(エム)である。ただしこれらの言葉は、大学生自らが用いるのではなく祖母から聞いた言葉である旨の意見がみられた。「芽寿」はアンケート時には判明しなかったが、インターネットで調べてみると、この表記でめんと読ませるらしいことが確認できた。¹⁾

代名詞として「あれ」という表現は、多くの女性が用いている。ほかにもあの日やななど複数みられる。

月経の別名として、代名詞のほかにもっとも多くの女性が使用しているのは、「女」を表す要素を持つ言葉である。月経は女性にのみおこる生理現象であるということ、またふだんは男性と変わらず活動している女性も、月経期間だけは否応なく、自分の女性性を認識させられるということなのかもしれない。また家族や恋人が使う言葉ということで、男子学生でも少なからず知っている。女の子病や乙女痛など副要素として月経随伴症状を伴う表現もみられた。蛇足になるがレディースデー(Lady's day)は英語での俗語でもあるらしい。

擬人化の場合はなぜその名称になったのか分からないものも多いが、基本は女性名が多い。ペリーさんなどはおそらく、月経随伴症状の項目に分類した来航と関わる幕末にやってきた黒船のペリー提督を意味しているのではないかと思われる。また友人との会話の中で「今来てるんだよ、使者が」と表現する例などもある。「奴」という言葉には、来なくていいのに来たというようないい意味でもない意識もうかがえる。

客という要素は、古くから用いられており、同様の感覚が連綿と続い

ている事例の一つであろう。

月は古くから用いられている要素であり、毎月やってくるというイメージが濃厚に反映されている表現なのである。月のものという古くから用いられている言葉もあれば、マンスリーと英語化されたり、セーラムーンというアニメのキャラクターの名前が使われたり、現代的な感覚も入ってきている。また月経痛をあらわす月の襲撃という言葉もみられた。

赤は月経血の色からの連想で、赤い色に関わるものや、月経随伴症状を連想させる言葉が用いられている。胸の赤いマークが点滅するウルトラマンや赤い色の民芸品であるアカベコ、イチゴ、トマト、ケチャップなど赤い色からの連想はさまざまである。一方赤い衝撃や赤い悪魔など月経随伴症状の意味をあわせもつ言葉などもみられる。旗日の発想などは、日の丸と同様ではないだろうか。

出血は月経血を表す意味合いで用いられるもので、経血量が多いことをそのまま表現しているなど、ストレートな表現が多くみられる。一方WWⅡは、第二次世界大戦すなわち World War Ⅱの略で、第一次世界大戦や爆発といった例を含めて、月経血量が多いことと、月経痛が重いことをあわせて表現しているのではないだろうか。洪水も大量出血を意味している。

貧血や月経痛など月経時におこる様々な随伴症状を表現している事例もみられる。貧血や血が足りない、腹痛といった症状をそのままあらわした言葉や幕末のペリー来航の衝撃にかけて重い月経痛を表現したり、

月経痛が重いのは前世のおこないの報いであるということで「償い」と表現するなど、月経がつらいなから少しでも紛らわそうとする現代的な想像力をよみ取ることができる。また月経は受精しなかった卵子を体外に排出するのであって、排卵とは異なる生理作用であるが、排卵や排卵日という言葉も用いられている。

女性の様子という分類は、男性のみが用いる表現で、女性は自分ではそう思っていないが、男性からみると月経時の女性は機嫌が悪かったり、面倒くさかったり、普段と異なって見える様子が表現されている言葉である。

生用品からの連想は二つあげられたが、アンネというのは、女子学生が自分で使っている言葉ではなく、母親から聞いたなど、知っているだけということのようである。お弁当箱とはナプキンが個包装されている形状からの連想のようである。

その他に分類した言葉のうち、「当たり」「誕生日」というのは、おそらくは月経中をあらわし、「お荷物」は月経用品もしくは月経痛ということであろうか。一方おすぎ・お花・きゅうり・せべ・日和・マイブームなど、関係性がよく分からないものもある。また中高大学生時代と年代によって使い分けているのも興味深い。

このように現代でも多くの隠語・別名がうまれているが、かつてどの大きな違いとしては、女性特有の生理現象であるという意味合いの女の要素を含む表現や月経痛や経血量が多い状態など、重い月経の症状や体調がすぐれない様子を表す表現など多様化しているということがあげら

れる。これらは現代の特徴なのかもしれない。普段は男女平等・共同参画と、男性と変わらないことが推奨・奨励されるが、男性との大きな違いを痛感させられる出来事が毎月一回やつてくる。また月経随伴症状に關していえば、アンケートで月経痛の有無についても質問しているが、月経痛を経験していない人の方が少ない現状が見え、苦しんでいる女性は多く、その事が月経の名称にもあらわれているのである。

Ⅲ インターネットで検索した事例

次に紹介する事例は、インターネット（以下ネットと省略する）上で検索することのできた名称である。ネット上では月経に関する情報が飛び交い、授業内アンケートではひろいきれなかった事例なども見つけることができ、探せば探すほど出てくるものと思われる。

- ・ お座布団（ナプキン）
- ・ 月からのお客様
- ・ 赤い客人
- ・ 来客（お客さんがドアがっしやーん！って蹴破ってきて暴れまくってる！
- 『あ！やめてください！もう勘弁してくださいいいい』
- ・ フェスティボ（祭り）
- ・ 紅 week

- ・ 赤日
- ・ ケチャまんリケチャップまんこの略：経血で汚れた女性器をあらわす（筆者調査時には由来が判明しなかった）
- ・ ビッチョ：一人の女の子が発した「ビッチョビッチョ」が語源です
- ・ 下半身が洪水
- ・ 下半身デロデロ
- ・ 下半身がスプラッタ
- ・ 女盛りの日
- ・ レディースデー↓水曜日↓映画一〇〇〇円の日
- ・ ブルーデイ
- ・ エリザベス
- ・ 中学「ドキンちゃん」↓高校「ペリー来航」

お座布団は、お弁当箱と同じようなニュアンスで用いられているものかと思う。

筆者のアンケートにもお客さんという言葉があったが、「来客」という言葉の使い方には、芝居じみた言い回しが用いられており、とても興味深い。しかしおそらくこれは重い生理痛を表現した言葉と推測され、月経随伴症状に振り回される女性のつらさを思うとおもしろがってもしられない。

赤の用いられている言葉もちよつとした違いで登場する。ケチャマンにかんしては、アンケートで言葉としては何度も出てきたし、意味合い

も想像できたが、教員に対して由来を伝えにくかったのかもしれない。月経血の量は個人差があるが、人によっては過多月経など、一時間ごとに生理用品を替えないともたない人もおり、そうした状態のあらわれかピッチョ、下半身が洪水、デロデロ、スプラッタといった名称もみられた。

レディースデーという言葉自体はよく使われており、またこの言葉は、映画館での女性限定の割引が適用される日を表す言葉としても用いられている。その日が毎週水曜日であることから派生しての「水曜日」、また派生して「映画一〇〇〇円の日」というのも発想力の豊かさを感じる。

ブルーデイというのはかつてみられた言葉でいまではアンネのように死語に近いのかもしれない。

エリザベスという擬人化や、年代によって名称が変わるなど、ここにあげた事例は、筆者のアンケートの結果に類似しており、人によって発想方法や表現方法が多少異なっているだけなのかもしれない。

IV 多くの別名がうまれる背景

ではこうした言葉が生まれ、使われるのはなぜであろうか。現代の若い女性でも、月経をタブー視するという人もいれば、そうした感覚がないという人もおり、さまざまである。女性同士では「生理」とストレートに表現するという人もいる一方女性同士でもぼかすという人もいる。また男性や人前では「あれ」「女の子の日」など別の言葉で表すとか、友

だちとの会話や医者に行くときなどで使い分けるといった意見もあり、人によってだいぶ意識が異なっているのである。

別名を使う理由についてアンケートで得られた意見を次にあげる。

- ① (男子) 中学校にいるときにひんぱんに使われており、複数あった。比較的男子に伝わらないようにしてできたのだと思う。
- ② (女子) 女性と話すときは女の子の日みたいなのぼかした言い方もしますが、それくらいでしょうか。
- ③ (女子) 女の子の日：生々しい表現を避けた結果この呼びかたになったか。
- ④ (女子) 女の子の日：紛らわすため！
- ⑤ (女子) 女の子の日：男子にあまり知られたくないから。
- ⑥ (女子) 友達と話すときに使う。
- ⑦ (女子) 生理の話はタブー（ただし旧来の不浄観によるものではない）

①⑤など男女双方の意見にみられるように、中学・高校などのちょうど思春期である学生時代に、男子に知られないようにするために使用している様子がうかがえる。一方で女性同士でもぼかすとか、友達同士で使うといった意見もみられ、またタブーという意見もある。

次にあげるのは「Yahoo!知恵袋」における生理の呼称への質問と回答である。ここには一部を抜粋してとりあげるが、1は質問者からベスト

アンサーに選ばれた回答のみ、2は①ベストアンサーとそれ以外の回答②～④の抜粋もあげた。⁽¹²⁾

1 皆さんは月経のことをどう呼んでいますか？

回答：昔は「女の子の日だから」とか言ってましたけど、恥じらいがなくなつてからはもう生理一筋ですね。

今考えても、生理って言うのがなんで恥ずかしかつたのか不思議なんですよね。

なので、生理について発言するのに恥じらいがない人は「生理」ちよつと恥じらう人は「アノ日」

2 どうして生理のことを生理と呼ばないのですか？

ぼかして「女の子の日々とか」女性の日々とかいう表現を目にします（個人的にこの呼び方は嫌いです…>.>）（中略）

最近はどうでもないにしろ、生理という言葉はタブーに近かつたのでしょうか？

回答：①ベストアンサー（男性）：人前（外出中等）でもし嫁に『生理』について聞くことがあれば、ぼかして言います。おそらく男はその事にどのように触れていいのかわからないので、ぼかすのでしょうか。気遣いだと思いますよ。

②時代が移つて、今では月経や出産を「不浄」「穢れ」とする旧来の考え方は（伝統文化）はぼすたれたと言えるで

しょうが、食事中や家族団らんの場で明るく話題にするこ
とでは、今でもないと思います。同じ生理現象である「排
泄」にまつわる話を、日常生活の場でストレートな言葉で
表現しないのと同様とも言えるでしょう。個人的には「便
秘」を何のこだわりもなく話題にすることに違和感をおぼ
えることがあります。

③まず「生理」は月経を遠回しに表現するための言葉なので、
単刀直入に言うなら「月経」ですよ。

（中略）月経は、うんこと同じ「汚物」の扱いです。
（中略）まあ、個人的には気にならないですが、汚物の話を
男性の前でする女性はマナーを弁えていないような気もし
ないではない。

④「男性の前や公の場ではいわない」のが基本ではないかな
～と思いますが、女性同士で耳打ちしてという対処の方が
正しいと思う。

③にあるように、根本的に生理は俗称であるにもかかわらず、そのこと
を認識していない人も多くいる。そしてぼかして表現するのは、気遣い
やマナーであると言った意見が複数みられ、筆者は電車で化粧すること
の是非を問うのと同じような感覚があるような気がしてしまふ。また②
③の「排泄」「汚物」にみられるように、命を授かるための重要な生理現
象という意識より、月経回数が増え飛躍的に多くなった現代においては、月

経は面倒なものといった意識もよみ取れるのである。

そして年齢とともに月経に対する意識が変化し、青年期には恥ずかしさがなくなるといふ意見もみられる。人前で抵抗なく話すことができる人がいる一方で、実際には現代でもあまり口にするものではないという意識もみえ、また友人、近親者（姉妹・母親・兄弟の手前）、先生、医師など話す相手によって言葉を変えている現状もある。

名称に関しては、かつてのような不浄観にまつわる言葉はほとんどみられなくなっている。一方女性に特有のものであるということを意識した言葉が多数創出されている。月を用いる言葉が多くみられるなど、旧来からの意識が連続している言葉も多くある。

江戸時代にも月虫や月水虫など、月経随伴症状をあらわす言葉がみられたが、現代ではさらに多様化し、出血の多さや月経痛など、生理的症狀や月経随伴症状を意味する言葉が多数創出され、多様化している。これらの多くはプライベートな話題として、仲間内で通じる言葉として創造されているものも多いと思われるが、ネットの普及による影響が、**W**のような言葉があらこちらで散見される事例もある。生理的症狀や月経随伴症状を表す言葉が多くなった背景については、民俗調査では孫の成長について、「今の子は発育がよい」といわれる一方、月経については、初経年齢が低くなったことを「今の子はませている」とか「今の子は生理が重い」などと聞くこともあるように、月経がかつてと現代で変質しているのではないかと推測される事情もあげることができるのである。

近年では小学六年生の十二歳前後までに多くの女子（九〇％程度）が初経を迎えている。十三参りなど、かつての成女祝いの多くは十三歳前後に行われる地域が多かったが、近代以降の初経年齢の調査を見てもわかるように、実際の初経年齢は十五歳で早いくらいで、それも都市と村落では差があった。¹³ 民俗調査で対象としてきた村落では、同じ女性であっても都市の女性の経験する初経年齢より遅く、調査では、初経を迎えた年齢が十八歳や二〇歳近くだったという話もきかれ、儀礼の行われる年齢と実態としての成女の年齢は必ずしも一致してはいなかったのである。現代では心身共に成熟していない、まだ子供として定義される年齢に「産む性」のあかしである初経を迎え、大人といわれてしまう。人によつては全く意識しない場合もあるが、人によつてはめでたいという感情よりもむしろ恥ずかしいという感情が先行し、家庭内においてさえ、男性陣である父親や男の兄弟には隠したいという意識が働く。

またかつての女性は初経を迎えてから出産までの期間が短く、出産回数も多かったために、生涯経験する月経の回数自体が少なく、月経随伴症状を経験する絶対的な機会も少なかった。しかし現代では、初経年齢の低下と妊娠出産回数の減少により、月経を多年にわたつて経験することになり、結果、月経痛など月経にまつわる様々な体調不良を経験する時間が飛躍的に長くなり、そのことを表現する手段としての言葉が必要となつているのである。

月経用品の発達により月経中の状態はともすれば隠すことができるようになった。しかし一方で初経年齢の低化や月経にまつわる体調不良の

増大など、実態として隠すことのできなかつた時代と比べて、現代の女性たちにとっては、月経を意味する言葉を口にするには依然として抵抗があり、女の秘めごととして、新たな言葉が生成されては消滅していく現象を繰り返しているのである。

おわりに

現代ではテレビコマーシャルで盛んに見ることができるよう、一見月経はオープンな現象になったような印象をかもしている。かつての不浄観は払拭され、すぐれた月経用品も開発されて、かつてとは天と地ほどの差があるだろう。しかし実際には思うほどには正しい知識は普及しておらず、現在でも月経については隠す隠さない二つの意見が併存しているように、月経は現在でも非常にパーソナルなものなのである。また月経用品の発達によってより隠すことのできるものとなったため、何もなければ他人に知られずに過ごすことができる一方で、月経痛など月経に伴う症状の重い女性が増えている現状では隠せる状況にはないことも名称からよみとることができるのである。

現代では月経の知識を取得する機会は、小学校の月経教育(移動教室などの際)や性教育などほんの限られたものしかなく、かつてのような身近な女性たちや母子間での伝承もほとんど行われていない。月経痛を緩和するには、運動が効果的であり、また体を冷やさないと重要であるが、こうした知識を知らずに薬に頼り、ただやり過ぎしている女性

たちが多く存在しているのである。

民俗学では、月経時の日常生活についての調査が欠落していた。また池田が指摘しているようにかつての視点での穢れによる禁忌などの非日常性ばかりで、日常をどのように過ごしていたのか詳細が分からない。その上過去の調査の焼き直しや孫引きばかりで現代の調査が不足している点も反省としてあげることができる。実際には現代でも月経はタブーであったり、隠すものにとらえている人も少なからずいるが、そうした調査も行われていないのである。月経の伝承をあらためて調査し、また意識してよみとくことによって、現代の女性の生活に役立つ情報が提供できるのではないだろうか。またこうした知識を提供する機会を改めて築く必要性も感じている。

今回は、現代の月経の名称に焦点をあてたが、今後も、ほかにもたくさんある月経の伝承を新旧つなぎ合わせてよみとき、女性の身体伝承として考えていくつもりである。

付記 本稿は、二〇一二年一〇月七日に東京学芸大学で行われた日本民俗学会第六四回年会において「月経の伝承」というタイトルで口頭発表した内容の半分に加筆したものである。当日は時間を見誤り、十分な質疑応答を受けることができなかったことを反省している。

註

- (1) 一九九七 『古事記』新編日本古典文学全集一 小学館 一二七～一三〇頁。
- (2) 一九九九 『うつほ物語①』新編日本古典文学全集一四 小学館 六四、六五頁。二〇〇〇 『落窪物語・堤中納言物語』新編日本古典文学全集一七 小学館 三〇、三二頁。一二一～一四一頁。一九九五 『蜻蛉日記』新編日本古典文学全集一三 小学館 二二九～二六頁。
- (3) 京都大学文学部国語学国文学研究室編 一九六八 『諸本集成倭名類聚抄』 [本文篇] [索引篇] 臨川書店
- (4) 月経名称については、月経を文化的に研究した小野清美 一九九二 『アネナブキンの社会史』 JIC出版局、楳垣実 一九七三 『日本の忌みことば』民俗民芸双書等先行研究も多々あるが、筆者も新たな知見を踏まえて稿を改めて発表するつもりである。
- (5) 寺島良安 一九八六 『和漢三才図会3』東洋文庫四五六 平凡社 一七五～一七七頁。
- (6) 奥山虎章 (おくやまとらふみ) 一八七三 『医語類聚』名山閣。序文は一八七二年 (明治五)。一八七八年 (明治一) に増補版が出版され、国立国会図書館ではデジタルデータ化したものを近代デジタルライブラリーにおいてインターネット上で公開しており、今回参照した。
- (7) 田口亜沙 二〇〇三 『生理休暇の誕生』 青弓社
- (8) 池田弥三郎 二〇〇三 『性の民俗誌』 講談社学術文庫 (一九五八) はだか風土記』講談社・ミリオンブックス、一九七四 『おとし・おんなの民俗誌』講談社文庫の改題) 二一四、二一九頁。
- (9) 前掲『日本の忌みことば』。
- (10) ここで一〇〇%と断じなかったのは、山岳信仰や大相撲における女人禁制の問題や月経中に神棚へ近づくことを禁ずる旧習を守る高齢者などの存在が

あるからで、丹念に探すと見つけることが出来るからである。

- (11) <http://dname.jp/index.php?nd=view&=me370> (2013.1.14 取得)
- (12) 「Yahoo!知恵袋」は Yahoo!JAPAN が運営する、電子掲示板上で利用者同士が質問を投稿し、回答を得るという形で、知識や知恵を提供しあう検索サービスである。
- 1 http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1335762088 (2013.1.14 取得)
- 2 http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1129450136 (2013.1.14 取得)
- (13) 松本精一 一九九九 『日本女性の月経』日本性科学大系Ⅲ フリープレス